

平成26年度第2回放送番組審議会 議事録

- 開催日時 平成27年2月23日(月) 14時から15時
- 開催場所 三次商工会議所 2階会議室
- 出席者委員 元泉園子(会長)・添田龍彦(副会長)・岩本智建・重信富子・前田茂
岩崎積・山岡幸子
- 欠席者委員 藤井啓介・宗清弘樹・湯藤浩康・田村眞司
- 説明員 (株)三次ケーブルビジョン
田坂代表取締役社長・新宅専務取締役
山光管理部長・野田制作部長・林技術部長
幸住管理課長補佐・津田制作課長補佐・坪井技術課長補佐
- 1 開 会 定刻になり事務局が開会を宣言する。
- 2 社長挨拶 つづいて、代表取締役社長が開会にあたって挨拶する。
- 3 会長挨拶 元泉会長が挨拶を行い、本日の審議会は少人数ではあるが、しっかり意見を出していただき、これからの番組作りに役立ててほしいと述べた。
- 4 審 議 審議に先立ち、制作部長が「あっちこっち三次」の特集コーナー『今、私たちにできること』について企画意図及び番組概要を説明し、3回シリーズとして放送した番組を10分にまとめたDVDを上映する。
- 会 長 番組内容について、DVDを参考に忌憚のない意見をお願いします。
- 委 員 この番組を見て、「要約筆記」を初めて知った。話している言葉を聞いて、すぐパソコンに入力するという事は、かなり難しいと思う。そういう裏方が居られて、地域の皆さんのお役に立っていることを見て感心した。今後も手話サークルなど、高齢者や身体障がい者の方をサポートするボランティアの人達の活動をクローズアップして放送されると言われた。それを紹介することは大変いいことだし、手助けしてほしい方たちもいるので、引き続き取り上げてほしいと思った。

委員 ケーブルテレビは、いろいろな視点から番組を編成していく必要があると思う。普段気付かないところにも目を向けて、ケーブルテレビで皆さんに紹介していくことが大切だと感じた。要約筆記について、活動されていることは知っていたが、市政懇談会でもされたことが紹介されて、驚いた。病院への付き添いも申し込めば可能だということを初めて聞いた。こういう活動を、利用したいと思う人は、きっとたくさん居られると思うので、放送を通して広く市民に知っていただくことは大事だと思う。高齢化社会が進んでおり、聞こえの不自由な方も多くなるので、要約筆記は需要がもっと増えてくるだろう。今後、ほかのボランティアグループの活動も取り上げてほしい。

委員 文字を映し出すというのは、知っていたが、「要約筆記」という言葉は知らなかった。3回に分けて放送されたが、1回を通して放送した方がわかりやすかったのではないかと。3回に分けた理由は何があるのか。

社側 「あっちこっち三次」の番組のなかで取り上げており、特集コーナーが最長10分であることから、分けての放送となった。30分の番組の中にはニュースや天気など様々なコーナーがあり、皆さんが楽しみにされているものもあるので、1回を通して放送すると、それが放送できなかつたりする。1回にまとめて、特別番組として放送してもよいかと思っている。参考にしたい。

委員 要約筆記の活動は、見聞きしており大変な仕事だという印象を持っていた。手話サークルは、いろいろな場へ出かけておられることは知っていたが、要約筆記の活動が、病院への付き添いもされていることを初めて知った。利用希望者へのよいPRになったと思う。
『広報みよし』を、三次朗読奉仕者友の会の皆さんが朗読されている。私も朗読できればいいなと思っている。そういう活動も取り上げて、PRしてほしい。

委員 この番組で要約筆記のことを初めて知った。地域社会の中には、いろいろなボランティア活動がある。三次ケーブルビジョンの役割として、地域に密着したボランティアグループをクローズアップするのは大変よいことだと思う。こういった番組は、ボランティアの人を活気づけるものになる。ボランティアをサポートするための放送には意義がある。ボランティアグループの運営や企画に密着して、放送で紹介することは、こうした方たちの支えになると思うので引き続き、取り上げてほしい。

委員 障がいを持っておられる方は、その内容や程度は様々である。中途失聴者の

方の場合、手話を覚えることに大変苦勞される。そのため要約筆記は、中途失聴者の方たちの、大きな手助けになっているのが現状である。以前は、ノートテイクだったが、今は先程の紹介のように、パソコンやプロジェクター等を使って、スクリーンに映し出される。少し離れた場所からでも、内容がわかって多くの人達に見ていただける。番組の中で、キャスターが要約筆記の体験をされていたが、話し手の言葉を要約して入力するのはかなりの能力が必要とされ習得するのも時間がかかる。

こうした番組を通して、三次市にも様々なボランティアグループがあることを皆さんに知っていただくことは、ありがたいことであり、大変有意義なことだと思う。

会 長 今回の放送内容についての皆さんの意見としては、概ね非常によい企画だったという意見であった。今まで、こうしたボランティアに焦点をあてたものはなかったと思う。これから、他のボランティアの活動も取り上げられたらいいと思う。また、ボランティアを必要とする人達にとっても、活動の内容を知っていただく良い機会になった。

普段の番組のなかでも、聴覚に障がいを持っておられる方への伝え方の工夫、例えば要約筆記であったり、テロップ出しをして、見ている人によりよく伝わる工夫があればいいなと思った。

次回は、どんなグループが紹介されるか見たいと思う。

ほかに、何か意見はないだろうか。

委 員 三次市内のボランティアグループをこれから、次々に紹介される予定なのか。

社 側 ボランティアグループの紹介は、障がいのある方にも関わるものなので、どこまで放送するかという難しい点があった。放送することによる誤解があってはいけない。

今回の放送で、ボランティアグループの方たちは、PRしてほしいという思いがあることがわかった。当社としても、メディアの役割として紹介すべきだということで、お互いスムーズに進められた。

今回の放送により、ほかのグループからの要望もきているので、第2弾、第3弾を計画している。皆様から情報提供していただけると、取材しやすくなるので、お願いしたい。

委 員 放送形態について、今後も同様にされるのか。

- 社 側 今回は、スタジオ生放送のなかに、収録部分と VTR 取材を入れた形態とした。企画の内容により、違った形態になることもある。
- 委 員 障がいを持っておられる方たちへの取材は、難しいという意味のことをいわれたが、どういうことが問題であるのか。
- 社 側 地域のメディアといえども、不特定多数の人が対象になるので、放送内容に誤解がないように、慎重に制作しなくてはいけないと思っている。
先日も、手話通訳の意味が違っているという連絡を受けて、内容を確認していただいた経緯がある。今後とも、放送内容の打ち合わせや話し合いには、時間をかけて慎重に制作していかなくてはいけないと考えている。
委員の皆様から「初めて聞いた」という感想をいただいたので、今回放送したことにより、多くの皆様に知っていただけたことを認識できた。
- 会 長 慎重に番組作りをされていることが、よくわかった。一旦放送されたものは、(内容が誤解されたら) 取り返しがつかない面があるので、そういう意味で、番組作りは難しいと思う。
今回の企画は、ある意味、チャレンジだったが、今後ともこういうチャレンジを続けてほしい。多くの良い反響があればいいと思う。
- 委 員 放送のなかで、当事者がわかる映し方をすることがあるが、一人ずつ理解を得ているのか。
- 社 側 団体の紹介の時には、代表の方に、どこまで映してよいか承諾をいただいて放送している。以前に比べて、皆さんが積極的にインタビューなどに応えていただけようになった。
- 会 長 今回の企画は、良い番組だった。また新しい番組を楽しみにしたい。
これで放送番組審議会を終了する。
- 5 閉 会 事務局が本日のニュース番組「情報ストリート、あっちこっち三次」で、この審議会の模様を放送し、議事録を HP に掲載することを伝え、閉会した。